

東京海洋大学国際共同研究促進のための交流支援事業実施報告

ミャンマーにおけるナマズ生態・養殖の調査

本学グローバル教育研究推進委員会で実施している公募事業「東京海洋大学国際共同研究促進のための交流支援事業」により、海洋生物資源学科学部門の寺原助教がミャンマーから研究者を招へいし、共同研究を実施しました。以下、寺原助教による報告の概要です。

【目的】

本交流支援事業は、共同研究先の一つであり、本学と国際交流協定（MOU 締結、平成 27 年度）を有するヤンゴン大学を始めとするミャンマーの関係機関との研究交流を活性化させ、ミャンマーの大型淡水ナマズの生態や養殖に関する調査研究を促進させるために行うものです。

【概要・成果】

東京海洋大学の研究グループ*はヤンゴン大学の Toe Toe Soe 講師を平成 30 年 10 月 14 日から 21 日にかけて本学に招聘しました。招聘期間中は以下の通り、ミャンマーにて収集した大型淡水ナマズ（ガミン）のサンプルを受け取るとともに、DNA および耳石を用いた調査手法について解析を行いながら説明して情報を共有しました。さらに、今後の研究の進め方に関して、研究打ち合わせを行いました。本件は、「東京海洋大学国際共同研究促進のための交流支援事業」の支援により実施しました。

- 15 日：ナマズサンプルの受け取り
- 16 日：耳石を用いた解析についての実験手法の説明
- 17 日：DNA を用いた解析についての実験手法の説明と解析
- 18 日：DNA を用いた解析についての実験手法の説明と解析
- 19 日：今後の研究の進め方に関する研究打ち合わせ

*研究グループのメンバー

- 小林武志准教授（海洋生物資源学部門）
- 横田賢史准教授（海洋生物資源学部門）
- 遠藤雅人助教（海洋生物資源学部門）
- 寺原猛助教（海洋生物資源学部門）

【期待される効果】

我々は 2017 年よりエーヤワディー川水系の大型淡水ナマズ（ガミン）の保護と養殖技術の確立を目指した現地生態調査を JICA（国際協力機構）調査団ベース等により行ってきました。本交流支援事業によって共同研究が促進され、大型淡水ナマズの生態や養殖に関する基礎的知見が得られることが期待されます。



今後の研究の進め方に関する研究打ち合わせ